

歴史を旅する Fashion show

十月二十日土曜日、旧野崎家住宅別邸で、「ニッポンたからものプロジェクト」が開催された。これは2020年東京オリンピックをきっかけに、「日本を再発見しよう」という全国展開の企画である。今回は世界に誇るジーンズのまち、和洋織りなす美しいまち、倉敷で開催された。豪華なゲストによるトークショー、下津井節や児島瑜伽太鼓による地域芸能、チェロ、日本舞踊による伝統芸能、そしてファッションショーという盛りだくさんな演目で、来場者は終始満足げな様子であった。

児島の繊維産業の始まりは、江戸時代後期までさかのぼる。かつて児島一帯は島々が点在する海だった。その後の大規模な干拓事業により広大な新田がもたらされたが、もともと海であった土地柄、土は塩分が多く含まれており米作りにはむかなかった。そこで塩分に強い綿やイ草が栽培されるようになったのだ。これが発端となり繊維産業が発達し、いまや世界に誇る「繊維の街児島」になったのである。



ファッションショーをするモデル
十月二十日、旧野崎家別宅

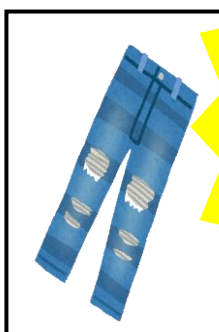
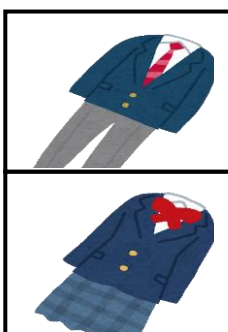
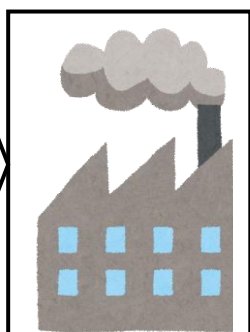
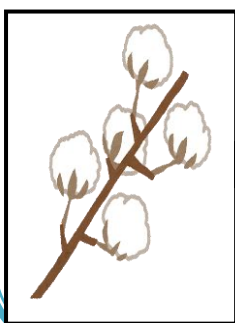
江戸時代から現代まで、その時代に着られていた服や、流行ったものの、学生服によるファッションショーが開催された。ジーンズの生地に着物といった斬新な服も紹介。来場者は楽しみに鑑賞し、服についての感想を思い思いに口にした。会場は我が町「児島」を誇りに思う暖かい気持ちと、モデルを応援する熱気で包まれた。

倉敷青陵高等学校
横林 真由

江戸

明治

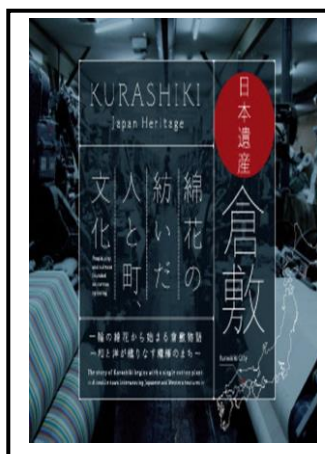
Now



繊維製品出荷額
日本一!

ねえ、知ってる?
なんと!

倉敷市で作られた繊維製品は全て日本遺産。ということとは、倉敷市産の服を着ていれば、日本遺産を着ていることになるんだ。児島の繊維産業はやっぱりすごい



編集後記

今回の参加で、倉敷の魅力すなわち、「和」の伝統と「洋」の技術が融合している歴史ある街、を再確認することができた。しかし倉敷には、まだ発見されていない魅力や、新たな「たからもの」があるはずだ。それを今度は自分で探し、発見し、自らの手で伝えていきたい。